

審 議 結 果

次の審議会等を下記のとおり開催した。

審議会等の名称	第4回益田市特別職報酬等審議会
開催日時	令和3年11月16日(火)9時30分～10時30分
開催場所	益田市役所 3階 大会議室
出席者	<p>○出席者</p> <p>【審議会委員】</p> <p>末成弘明会長/大畑悦治会長代理/久保勝規委員/田中文仁委員/ 田村清己委員/能地奈保美委員/松本満委員/森本恭史委員</p> <p>【事務局】</p> <p>藤井総務部長/塩満人事課長</p> <p>○欠席者</p> <p>澤江佑三委員/清寺一輝委員</p>
議題	(1)諮問に対する審議
公開・非公開の別	原則公開
非公開の理由	
傍聴人の数	0名
問合せ先	総務部 人事課 電話:0856-31-0321
審議経過	<p>1 開会</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>おはようございます。今まで3回審議してきて本日は答申案の審議。コロナも第6波の心配はあるが、今のところ全国的に落ち着いている。先日、産業祭が人数制限など感染対策をしつつ開催された。久しぶりに多人数が集まり、神楽もあった。人が集まって行事ができるというのは本当にいいなと思った。何とか正常化していきたいと思うが、高齢者施設のクラスターやブレイクスルーなどもう少し我慢するかという気持ちになる。昨日、社会福祉協議会主催で社会福祉大会を開催した。本来なら多くの人に案内し、講演会等行うところだが、昨年に引き続き、関係者のみ、内容も表彰や中学生弁論大会のビデオ上映、赤い羽根募金などの展示等縮小して開催した。挨拶の中で生活福祉資金の貸し付けの状況から若い方の困窮の実態について触れたが、まだまだ改善されておらず、その影響が子どもにも出てくる。そういった状況の中で、特別職の報酬についての結論は妥当ではないかとも思ったところ。</p>

3 審議

(1)出席者、傍聴人の確認

委員 10 名中 8 名の出席。傍聴希望はなし

(2)本日提出資料の説明

【資料 1】「答申書案」

以上、事務局より説明。

(3)審議

(会 長) 委員の皆さんに事前にお読みいただき、いただいた修正点について修正された答申案であるが、何か意見や質問、感想でも何かあれば発言願いたい。

(委 員) こういうご時世なので、やむを得ないという感じがしている。私が思うのは、特別職が減額をされていることについて、市職員の意識はどうか。一体感を持って皆の意識が変わってくればいいと思うが、特別職だけが減額となっていることについてどう思われているのか気になっている。世の中どんどん変わっていく中で、人口も減っていく、全体的な変革の中で、皆さんの意識も当然変わっていくことが当たりまえだし、その辺がどうか。特別職だけの審議の中では直接的には関係のないことだが、気になるところ。

(事務局) 答申書にあるように特別職は平成 13 年度からずっと特例減額を続けている。その辺りから益田市の財政状況も非常に厳しくなっていて、過去には財政非常事態宣言も出し、何とか財政調整基金という市の貯蓄が枯渇しないように財政を引き締めながら取り組んできた。その中で、職員についても平成 16 年度辺りから管理職を含めて一般職も特別の減額を実施してきた。「特別職だけにさせるわけにはいかない。皆で何とか財政を」という気持ちの中で、職員も 10 年近く取り組んできて、管理職については、昨年度まで 15 年くらいずっとカットをしてきた。そういう意味では特別職だけでなく、職員も一緒にという気持ちで取り組んできたところ。そうした中で答申書案にもあるように財政状況が若干いい傾向も出てきたというところで、昨年度を持って、管理職のカットを取り止めて、今年度については特別職だけ残ってきた。ここは市長の思いもあって、まだ自分たちは身を切っていこうという気持ちでやっている。このように職員も一緒にという気持ちで取り組んできた。

(委 員) 一体感が図られるようにしていただきたい。

(会 長) この減額は議会の承認も得ると思うが、議員からの意見はどうか。

(事務局) 特例減額の条例は 1 年ごととなっており、毎年更新している。3 月議会に提出した際、議員からもこの間ずっと「やめるべき。本来あるべきものではない。しっかりと給料をもらってしっかり仕事をしてほしい。」という意見があった。

(会 長) 最近どこかの市で報酬審議会を開催したということは無いか。

(事務局) 今年度は聞いていない。

(会 長) コロナの中で他所も動きにくいというところもあると思う。これから他市がどういう動きをしていくのかも見ながら、報酬審議会の開催時期も硬直化せず、柔軟な捉え方をしていけばいいかなとも思う。

(委 員) コロナがおさまって景気がどんどん良くなれば良いと思うが。これから何らかの形でコロナの影響も出てくるのではないかな。

(委員) 当初は、コロナにより廃業などの影響が結構出てくるだろうと予測しており、いつもの年以上に準備をしてきた。今現在においては、苦しんでいるのは事実としても、行政からの支援もあり資金繰りによる破綻については、予想していたよりは全然影響は少なかった。ただ、そうとは言え、2年先にコロナ融資の返済が始まることもあり、今後という点ではまだ予断を許さない状況といえる。表面上、見た感じはコロナが落ち着いて良くなりつつあるということはあると思うが、ここ数年で傷んだ部分もあるので、今後という点では、良くなってきたというより、今まで傷んだところが表面化してくるのではないかと思う。だから、この審議会でする上げるの判断が難しいと思いながら取り組んできた。

(委員) 株価は上がってきていても、実際はそんな雰囲気ではない。

(委員) 特別なカットも含め、上げるという判断がなかなか難しい。行政の場合は市民感情もある。民間企業以上に厳しい目が向けられる。他市よりも高水準にしていきたいという気持ちは皆さんあると思うが、そこまで一気に難しいと審議会の中で感じた。何か指標めいたものを期末手当辺りから考えていけばよいのではないかと思う。この答申書とは別に感じたところ。

(会長) そういった気持ちも答申書に入っていると思う。減額というものは一種ペナルティ的な要素もある。罰則的な考え方をあまり多用することはいかなるものか。何かあった時にはトップとして当然責任を負うことはあるが、常態化することは良いことではない。今上げる状態ではないが、楽ではないとはいえ、一般的にそこまで悪くない中で減額していく状況ではないのではないか。減額は市長の判断、政治家としての思いによるものであることから、自分たちには強制できないが、答申の際には好ましくないと言わなければならないと思う。

(委員) 全国的に米が余っている状況で、米価が下がってきている。また、世界情勢から為替が随分円安に進んでいる。どうしても肥料や飼料は輸入が多く、値上がりしてしまう。また、原油価格が非常に上がっていて、ブドウ部会の総会でも燃料の値上がりが深刻という話が出ていた。問題は3役の責任をどう判断するのかということ。減額のことは非常に気になっている。責任逃れの減額であってはならない。コロナ禍で大変な中、儲けている企業もあれば、落ちている企業もあり、バランスが悪い。島根県の最低賃金も上がっている。コロナ禍で上げていくということは島根県の中でも随分議論されてきたと思うが、上げるべきところは上げていかないといけない。賃金とは労働の対価であるとともに、生きがいとか働きがいとかにもつながる。今の財政状況から見ると上げるということは難しいかもしれないが、減額のところは責任逃れの的にやっておいた方がよいだろうというようなことでは違うのではないかと思う。

(会長) そういった意味でされているのではないと思うが、そういった捉え方もある。自分が我慢しているので、皆も我慢しろという論理になってはいけない。そうではないと思うが、責任逃れという誤解も受けやすいということもあると思う。

(委員) 益田市議会議員の人数はどこで決まるのか。今の益田市でそれだけ必要なかなど思ってしまう。

(事務局) 議員定数は議会で自らが議論し、決めていくもの。当然、市民の声も感じながら議論されてきた経過がある。合併時から少しずつ減ってきており、現在は

22人。2年後には次の選挙があるが、直接定数のことを話されるかは分からないが、議員の中であり方検討委員会がこの度新たに立ち上がった。今後2年間自分たちの職務なり、あるいは定数等の議論をされていくのではないかと。議会と執行部は全く別のものなので、市長から指示できるものではない。あくまでも議員が自分たちで議論し決めていく形となっている。

(委員) 人口が減っていても議員はそれだけの定員が必要ということなのか。

(事務局) 以前は定数を減らしている。そういった考えは持っているのではないかと。

(委員) 一時、15、6人とかもっと減らした方が良いのではないかとという意見があったように思う。

(事務局) 市民の方の意見はあったように思うが、そういった声も含めて現在の定数となっており、今後も考えていかれると思う。

(会長) 人口などを考えると減らした方が良いということもあると思うが、一方、美都、匹見など人口が減少している中、一概に定数を低くすると、その地区の議員がいなくなる可能性もある。益田市全体の議員であるべきではあるが、地域の代表としての側面もある。一票の重さで言えば、東京一極集中の中で、島根、鳥取などは国会議員がいなくなってしまう。すごく悩ましい。22名が適切かどうか。財政などを見ても多すぎるのではないかとという意見もある。でも地域で見れば地域から議員がいなくなってしまうことはどうなのか。当然一地域のための議員であってはならないし、益田市全体の議員であってもらわなければならないが、地域住民感情なども考えると微妙な問題。町中の意見と過疎地の意見では違ってくる。そういった意味では審議会なども必要かもしれない。住民代表の中で自分たちの地域の議員がいなくなるので減らしてもらっては困るという意見もあれば、22人も必要ないという意見もある。総合的な意見の中で、議員も含めて審議する形も必要になる時代が来るのではないかとと思う。

(委員) 一地域を見るのではなく、市全体を見なければならない。

(会長) 市民からいろいろ上げていくことが大事だと思う。

(委員) こういった会議を開くことが義務化されているわけではないと思うが、もう少し柔軟に開催されても良いのではないかと。固定化する必要はないが、その時その時に必要だと思えばすぐに開催できるような状態を作っておくことが良いのではないかと。この先10年を考えると、今よりもっと動きが速くなる。その状況下でこういった会議は柔軟性を持って開いた方が遅れずついていける、対応できるのではないかとと思う。

(委員) 今回はコロナ禍ということで、前回の会議でもあったようにタイミングがすごく悪かったと思う。5年とかのスパンではなく、タイミングを見て、状況を踏まえて適切に開催されることが望ましい。答申書に関しては、コロナ禍での貧困問題などの文言を入れてもらったので、良かったと思っている。

(会長) 色々いただいた意見を整理したい。この答申書案について、良いかどうかを確認したい。

(一同了承)

それでは、答申書はこの内容とさせていただく。今後の予定について事務局から説明をお願いする。

(事務局) 今了承いただいた答申書を改めて市長に提出することとなる。本日市長は出張中で不在であるため、この場に出席できない。このため、11月19日金曜日午後3時から改めて市長へ答申書を渡していただくこととし、末成会長、大畑会長代理の日程は調整させていただいた。他の委員の皆様でこの時間の都合がつくのであれば同席願いたい。

(会長) 委員の皆様で都合のつく方は同席をお願いしたい。以上で審議会の審議は終了となる。最後に委員の皆様からそれぞれ感想を聞かせていただきたい。

(委員) 大変難しい審議会だった。印象としては、市長をはじめ3役、議員の給料が県下で一番安いということは、市民としてももう少し益田市を盛り上げていかなければならないのではないか感じた。

(委員) 自分も難しい議題だった。数年に1回やればよいというものではなく、時代は色々変わっている。また、委員が我々で良いのかという思いもした。審議会のあり方も難しいが、考えていかなければならないと感じた。

(委員) この席に自分が座っていて良いのかということを毎回思っていた。職場にも緊張の場にいってくると言っていたほど。ただ、こういうことはこの場に参加していなければわからないこと。本当に貴重な体験をさせてもらった。なかなか意見が言えなかったが、皆さんに感謝したい。

(委員) 自分も同じように自分で良かったのかとも思いながらの参加だった。特別職には責任を持ってしっかりやっていただきたい。そのための審議会だと思う。色々勉強になった。これからの市政をしっかりとやっていただきたいという大きな期待を持っている。

(委員) とても勉強させていただいた。国も待機児童問題から少子化対策へシフトチェンジがなされていくように思う。益田市は待機児童がなく別問題だったが、少子化対策については、益田市が最先端の現場となる。審議会とは別な問題ではあるが、そういったことを踏まえて、益田市の未来に向かって市長をはじめ益田市全体で一丸となって取り組めればよい。

(委員) 今回審議会に参加して、変わった視点で益田市のことが分かった。こうやって関わったことで自分にとっても良い経験になった。今後の益田市を我々からも行政も一体となってやっていけるようになればもっと盛り上がるのではないかと感じた。我々もやっていきたいと思う。

(会長代理) 私たちの知られていない部分について理解もできた。8市の中でも皆さんご苦勞されている。官民一体となって8市の中でもキラリと光るような益田市になってもらいたいと思っている。市全体の一体感、官民一体の一体感を作っていってほしい。

(会長) 委員の皆さん本当にありがとうございました。特別職の給料を決める会議ではあったが、報酬を決めるだけではなく、今後の益田市を、市民が幸せに、皆が生き生きと地域で過ごしていけるよう、そういった思いまで話をいただいた。これは大きな成果ではないかと思う。これで審議会は終了となるが、せっかく皆忙しい中集まって、貴重な意見をいただいた。これも一つの縁。この縁を大事にこれからも語り合いながら地域の発展、益田市の発展につなげていきたい。今後とも変わらず、よろしく願いたい。ありがとうございました。

(事務局) 委員の皆様には7月から4回審議を重ねていただき、答申書を作っていただいた。コロナ禍ということで、非常に難しい審議、過去においてもこうした状況の中での審議会はなかった。非常に難しい審議をお願いしたと思う。先程から意見のあった柔軟な審議会の開催については、次回5年と決めるのではなく、経済状況、社会状況を見る中で、ちょうど2年後には議会の改選もある。その頃にはコロナも収束しているのではないかという期待も含めてその辺りで開催できればと思っている。益田市の財政状況については、少子化対策、子育て支援、高齢者対策、障がい者、あるいは、下水や山陰道、区画整理、こうしたインフラ整備など益田市も一生懸命各分野で取り組んできている。その中でも近年少しずつ財政状況も改善している。益田市は簡単に言うと2つの財政上の課題があって、一つは借金が多いこと、一つは貯金が少ないということ。借金については、ここ数年借りる金額より返す金額の方が大きく、借金額が確実に減ってきている。市の貯金である財政調整基金も10年前には枯渇寸前だったものが、現在、9月末段階で16億円程度まで増えてきている。市民の協力によって財政運営する中、少しずつ改善してきている。国においても、今後、国民全体の給料を上げ、経済を回していく動きも加速していくと言われている。そうした状況をしっかりとらえて、来年度以降、しっかり財政運営する中で、次回の報酬審議会の中では自信を持って特別職の報酬を上げられるように我々も精一杯頑張っていこうと思っている。19日には市長と面談した際に答申以外の意見も市長に伝えてもらえればと思う。我々もこの答申書を基に、条例等市長と一緒に考え、取り組んでいく。これまでありがとうございました。